

2026年7月20日 大相撲名古屋場所の片男波部屋の稽古場に玉鷲関をお訪ねしました。

本年1月に「週刊社会保障」に掲載された「ほどほどで、明日も楽しみ 大相撲 玉鷲関」で取り上げさせていただいた玉鷲関を知多市内の稽古場にお訪ねし、稽古を見学し、応援してきました。これからも活躍をしていただきたいです。



こじんまりとした住宅街の中にのぼりが立っていました。



からだを動かして入念な準備をしていました。



朝稽古が終わると早速に応援に来た人たちに声をかけてくださいました。自分の稽古だけでなく、おとうと弟子への指導もきめ細かくしていました。相撲に、指導に、地域交流（知多市ふるさと観光大使）に、真剣に向き合う姿に感動しました。



応援にきた子供と話している時はとてもリラックスして見えました。

[掲載された記事はこちらに続く↓](#)

縁側にて ②

ほどほどで、明日も楽しみ 大相撲 玉鷲関



藤田医科大学教授・地域共生社会推進センター長 堀江 裕

本年もよろしく願ひします。

大相撲初場所が始まる直前の入稿で、掲載される頃には結果が出ているのですが…。ここ数場所、玉鷲関から目が離せない。40歳で新横綱・大の里を破るなど、強豪力士を脅かしている。

大相撲は、実力一本で番付で評価される厳しい世界。玉鷲関は、自力で番付を確保し、幕内の大舞台で大活躍。そんな玉鷲関のテレビ画面越しから自然に伝わる印象は、相撲を楽しんでいる姿だ。強い力士には勇敢に挑み、勢いある新鋭に対しては挑戦をはねつける壁となる。勝てばよしよし、負ければ残念、また明日。力みも悲壮感もないのが魅力だ。

41歳での大活躍が話題になっているので報道からいろいろ読むと、第一線で活躍を続ける秘訣は、どうやら「ほどほど」を心得た自己管理のようだ。

玉鷲関は、自らを追い込む稽古や過剰な筋力強化とは一線を



画すとのこと。出場を続けるための最優先は、怪我を防ぎ、土俵に上がれる状態を保つことだ。

調子が良い時には身体を過度にいじらず、無理しない。相撲力士の印象と違い、お酒を余り飲まず、周囲と群れず。モンゴル出身の妻と子どもふたりと過ごす時間を大切にし、趣味は裁縫。モンゴルの大学生だった時、たまたま日本の大学に留学中の姉を訪ねて来日したのがきっかけで、ホテルマンになる目標を変えて相撲部屋に入門したエピソードも、なんとも力が抜けていて、微笑ましい。

一方で、当然だが、勝負への意欲は強く、変わらない。小さ

な部屋に所属。同部屋に強い力士がいらないとなれば、普通なら出稽古に行きそうだが、玉鷲関は違う。相撲に集中するため外出を控え、同部屋の若手ふたりに一度にかかってこさせて稽古してきたとのこと。現状を憂えず、工夫を重ねて、結果が出せると、してやったり。どうやら相当にポジティブな性格のようだ。結果、優勝2回。それも34歳と37歳と遅咲き。

やや強引だが社会保障の文脈で見れば、玉鷲関の姿勢からは、中高年の就労や社会参加に大きな示唆を感じる。無理に張り切らず、自分なりの挑戦を長く続けられることは、健康維持や生活資金確保とは別の次元の自己充足につながる。昨日は一番やって見せた、今日は残念、明日は頑張ろう。玉鷲関が土俵の上で体現しているその生き方を、今後も見つめていきたい。せつかくの名古屋勤務。名古屋場所の折には、玉鷲関が楽しく稽古する支度部屋を訪ねたい。